大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2017 (平成 29) 年 第 31 週 (7 月 31 日~8 月 6 日)

今週のコメント

~ RS ウイルス感染症 ~ さらに流行が拡大

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 さらに増加」

第 31 週は前週比 15.6%減の 3,597 例の報告があった。報告の第 1 位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、R Sウイルス感染症、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数は それぞれ 6.8、3.7、2.0、1.9、1.4 である。

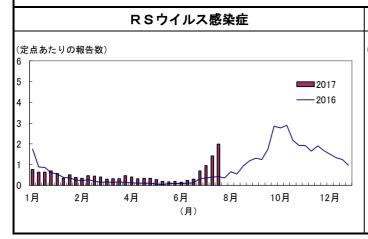
手足口病は前週比 26%減の 1,366 例となり、大阪市西部 11.7、南河内 11.6、大阪市北部 8.7、中河内 8.1、大阪市南部 7.1 であった。減少傾向を示しているが、依然警報レベルを超え、流行が持続している。

感染性胃腸炎は 15%減の 747 例で、南河内 6.8、中河内 6.2、北河内 5.0 の順である。

RSウイルス感染症は 42% 増の 400 例で、大阪市北部 5.0、北河内 3.9、大阪市西部 2.4 であり、豊能・南河内 以外の全ブロックで増加した。

ヘルパンギーナは8%減の386例で、大阪市北部3.6、北河内3.0、大阪市西部2.3であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 20%減の 275 例で、三島 2.4、豊能 2.3、大阪市西部 1.8 であった。



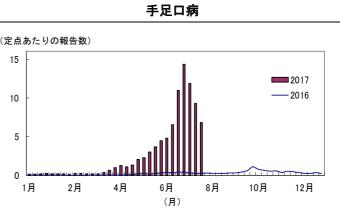


表1. 大阪府小児科定点把握感染症の動向 (2017(平成 29)年 第31週 7月31日-8月6日)

第31週 の順位	第30週 の順位	感染症	2017 年 第 31 週の 定点あたり 報告数	前週比增減	2016 年 第 31 週の 定点あたり 報告数	2017 年 第 31 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	手足口病	6.8	26%減	0.3	1 歳_ 32%
2	2	感染性胃腸炎	3.7	15%減	3.7	1歳_16%
3	5	RS ウイルス感染症	2.0	42%増	0.4	1 歳_ 46%
4	3	ヘルパンギーナ	1.9	8%減	2.1	1 歳_ 29%
5	4	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.4	20%減	1.6	5 歳_ 15%

第 31 週のコメント

感染症の話(国立感染症研究所)

~ 梅毒 ~ 2017年の国内の梅毒感染者は、1999年以降、最も多く報告されています

全数把握感染症梅毒 国内の梅毒の感染者は、2010 年より増加傾向にあり、2017 年は 2016 年を上回る勢いで報告されている。感染症法が施行された 1999 年以降、最も多く報告されている。梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、ロ、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗生物質の服用で治癒が期待できる。 感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク) (選別報告数)

表 2. 大阪府全数報告数 (2017(平成 29)年 第 31 週 7月 31 日 - 8月 6日)

*)注意:この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

1類感染症	報告はありません				
2類感染症 (結核は除く)	報告はありません				
3類感染症	細菌性赤痢 1名(大阪市 1名、府内累積報告数 5名)腸管出血性大腸菌感染症 3名(三島ブロック 1名、北河内ブロック 1名、大阪市 1名、府内累積報告数 67名)				
4類感染症	日本紅斑熱 1名(南河内ブロック 1名、府内累積報告数 2名)レジオネラ症 2名(豊能ブロック 2名、府内累積報告数 42名)				
5類感染症 (麻しん、風しんは除く)	アメーバ赤痢 2名(三島ブロック 1名、北河内ブロック 1名、府内累積報告数 76名) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名				
結核 (2017 年 6 月分)	結核 新登録患者数:178名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 66名) (府内累積報告数 944名、内 肺・喀痰塗抹陽性 383名)				
麻しん、風しん	麻しん報告はありません風しん1名(北河内ブロック 1名、府内累積報告数 6名)				